

1877年刊『使徒行傳の話』テキスト電子化と解題

—明治初期の口語体ひらがな専用キリスト教入門書—

松本隆

【要旨】

1877 (明治 10) 年に『使徒行傳しとぎやうでんの話はなし』というキリスト教の入門書が神戸で出版された。本文に漢字をいっさい使わず、ひらがなだけで使徒言行録の内容が通俗平易な口語体で再話されている。言文一致体が確立する以前の口語談話形式の文章として、また漢字を廃した表記法の先駆実践として興味ぶかい。また英語の原作を全訳した作品でありながら、それを意識させない自然な日本語にも目をひかれる。本稿では、この稀覯書の本文を電子化 (ワープロ文書化) し、検索など利用の便に供するとともに、本書に関する情報を添えて解説とした。

【キーワード】

アメリカン・ボード (米国派遣宣教師事務局 The American Board of Commissioners for Foreign Missions)、ジュリア・ギュリック (Julia Ann Eliza Gulick)、モーティマー夫人 (ファヴェル・モーティマー Favell Lee Mortimer)、『The Story of the Apostles』、『七一雑報』 (Shichi Ichi Zappo)

◎[クリックして『使徒行傳の話』電子版 \(PDF\) を開く。](#)

1 日本語資料としてのキリスト教文書と、本書『使徒行傳しとぎやうでんの話はなし』の概略

日本語史を考察するうえで重要なキリスト教関連資料といえば、まず鎖国前の 16 世紀末から 17 世紀初頭にかけてイエズス会が編纂した一連の出版物が思い浮かぶ。天草版の平家物語、エソポのファブラス (イソップ物語)、日葡辞書など貴重な資料に記されたポルトガル語式ローマ字を通じて当時の日本語の実相が解明されてきた。

そして次に、開国前後の 18 世紀後半、宣教のために作成された諸文献は、現代の日本語が確立していく過程を探る資料として価値が高い。ヘボンの『和英語林集成』や S.R. ブラウンの日本語会話書をはじめ数々の資料が編まれ、その集大成が聖書の全訳として結実する。

ここに紹介する 1877 (明治 10) 年刊『使徒行傳の話』の書名にある使徒行伝は言うまでもなく新約聖書に収められた全 27 文書のうち冒頭 4 福音書に続く第 5 番目の文書であり、現在は使徒言行録と呼ばれる。書名後半の『…の話』は、本書が聖書そのものでなく、要

所を選びすぐって適宜解説を加え、まとめ直した、いわゆる再話ものであることを示す。

文章は「でござります」基調の口語体で、漢字を廃した全文ひらがなの分かち書きが目をはひく。後述するように、この本は英語の原作に基づく全訳であるが、原文の雰囲気そのまま保ちつつ、翻訳であることを忘れさせる自然な日本語に移し替えている。

ひらがな専用論者が大同団結した「かなのくわい」結成（1883 明治 16 年）や、言文一致体の嚆矢とされる二葉亭四迷『浮雲』の発表（1887 明治 20 年）に先んじて、全文ひらがなの口語体で作品全体を破綻なく訳しあげた本書は、国字論・文体論・翻訳論いずれの観点からも興味ぶかい作品である。

2 本書の関連情報：書誌、原著と原作者、翻訳者、和訳文の特徴

国内の大学図書館で『使徒行傳の話』を所蔵するのは、同志社大学（の 4 本）と、東京神学大学ならびに西南学院大学（各 1 本）の 3 館（計 6 本）にすぎない（CiNii 調べ）。公共図書館での所蔵は確認できず、複製あるいは翻刻の類も管見に入らない。また本稿執筆（2013 年 8 月）の時点でインターネット上に画像や文字データも見当たらない。上記 3 館とも書誌の概要は共通し、①題簽の書名「使徒行傳の話」、②巻頭の書名「志とぎやうでんのはなし」、③出版は神戸の福音舎、④大きさ 19cm 洋装本 125 頁となっており、⑤著者や出版年は空欄のまま不詳である。

本稿が底本とした同志社の 1 本（資料番号 0000418579）は、扉（内題頁）や目次・序文の類がない。巻末には「賣捌所」として「神戸元町通三丁目 福音舎／大坂京町堀四丁目 福音舎／西京寺町通夷川下ル西側 福音堂」の 3 箇所が記されるだけで他の奥付情報はない。そのため、上記図書館の書誌情報⑤のとおり、本書からだけでは著者や出版年が判明しない。なお本文は 1 頁 12 行の縦組み、1 行に 40 字ほどの仮名が収まるが、分かち書きの関係上 1 行あたりの文字数は一定しない。

『日本キリスト教文献目録：明治期 1859-1912』（国際基督教大学アジア文化研究委員会編、創文社 1965 年刊）は『使徒行傳の話』の出版年を「明治 11（1878）？」と推定している。米国ハーバード大学の燕京図書館（Harvard-Yenching Library）の書誌データは、出版年を明治 10（1877）年、著者を Julia A. Gulick と記し、さらに「封面題識：Story of the apostles translated under care of Miss Julia A. Gulick.」と注記する。「封面」の「^{ほうめん}題識」つまり表紙の記載事項から、本書が日本語の書き下ろし作品でなく翻訳ものであることがわかる。種本と覚しき Favell Lee Mortimer 著『The Story of the Apostles; or, The Acts Explained to Children』（グーグルブックスがインターネット上に公開する米国バージニア大学の蔵本、1876 年 New York: Robert Carter & Brothers 社刊）と照合したところ『使徒行傳の話』がこの『The Story of the Apostles』を全訳した作品であることが判明した。

上述のごとく『使徒行傳の話』に目次はないが、各章の冒頭にある題名（見出し）を、

英語原書の目次と組合せ、稿末の資料としてまとめた。電子化テキストを読む際の参考にされたい。稿末資料を見ると、英語と日本語では各章の題名の付け方（訳し方）がやや異なるが、それに続く、聖書の対応（参照）箇所は英原書と和訳書が終盤の数章を除いてきれいに対応している。なお、英原書は各章の本文が始まる前に、その内容に関連する聖句を掲げるが、和訳書はそれらを省いている。

原著者のモーティマー夫人（Favell Lee Mortimer, 1802-1878）は19世紀に活躍した英国の児童文学作家で、代表的な出世作は1833年の『The Peep of Day』である。この本は38か国語に翻訳され、少なくとも100万部が売れたという（トッド・プリュザン編、三辺律子^{さんべりつこ}訳『モーティマー夫人の不機嫌な世界地誌：可笑しな可笑しな万国ガイド』バジリコ2007年刊10頁）。夫人は児童書の作家として成功を収め16冊を著わし、英国のみならず多くの国々で読者をえた。しかし作品の大半が20世紀はじめまでに絶版となって以来、夫人の名前と著作は歴史からほとんど消えてしまった（同書10頁、19頁）。

和訳に当たった「Miss Julia A. Gulick」とは、アメリカン・ボード（American Board of Commissioners for Foreign Missions）の宣教師として1874年に来日したジュリア・ギュリック（Julia Ann Eliza Gulick, 1845-1936）をさす。ギュリック家は宣教師を多数輩出したことで知られ、日本ではジュリアの兄オラメル（Orrramel Hinckley Gulick, 1830-1923）が有名である。兄オラメルは1871年に来日、生まれ故郷ハワイに住む両親を1874年に日本に連れてくる際、妹ジュリアも一緒に来日する形となった。このとき日本から同行していたのが、オラメルに日本語を教えていた今村謙吉であった。ジュリアは「この日本行きの船中で謙吉から日本語の特訓を受け、着いた直後から神戸で九年近く伝道に当たったのを皮切りに、新潟、熊本、岡山、宮崎と三十余年にわたって勤めに励み、各地の人々の心に強く残る女性となった」という（勝尾金弥『『七一雑報』を創ったひとたち：日本で最初の週刊キリスト教新聞発行の顛末』創元社2012年刊152頁）。帰国から1年半後にオラメルは日本初のキリスト教系週間新聞『七一雑報』^{しちいち}を今村謙吉や村上俊吉らと共に創刊した。『七一雑報』の「教會新報」欄は、折りに触れ「ジュリア・ギュリキ」の伝道活動ぶりを報じている（例えば1878（明治11）年10月25日3面上段ほか）。

『使徒行傳の話』の訳文は、不自然な翻訳調に陥ることがなく、日本語で書き下ろされた作品であるかのように違和感なく読み進められる。訳調は、細部の正確さに拘泥せず全体の流れを重視し、英文のもつ雰囲気や日本語に移し替え、英文読者と同様の読後感と理解内容が、和文読者においても再現される訳文になっている。英原文と和訳文を照らし合わせると、英文の内容を端折って圧縮したり、逆に英文にない文章が和訳に加わっていたりするなど、大らかな翻訳姿勢がうかがわれる。しかし『使徒行傳の話』は英語の原書を全訳したものであり、内容にまで手を加えた翻案や、部分的な抄訳ではない。

なお『使徒行傳の話』は、英原書と異なり、段落を分けず1章が1段落のベタ組み状態になっている。後の3-3節で触れるように句読点など記号類の用法も整理されておらず、

段落意識の欠如とあわせて、視覚的に読みやすい文面には程遠い。しかし、まだ稚拙ながらも、新たな文章形態を模索しはじめた日本語の一側面を、この『使徒行傳の話』は現代の読者に示してくれる。

3 テキストの電子化について

3-1 電子版と和訳書との異同

『使徒行傳の話』を手作業によってワープロ入力し、PDF化したものを本稿の付録とした。テキストの電子化は、語句の検索など日本語資料として利用の便を第一に考えた。

電子版には和訳書の頁数を、例えば「【p.48】」のように示した。「【p.48】」の次から48頁が始まる。ただし単語が頁をまたぐ場合、その語の最後までを当該の頁に収めた。例えば47頁の最後は「…まもなくかみはへろ」、48頁が「でをおぼつしなされ、…」と続き、王の名前「へろで」が頁をまたぐ。このような場合、48頁の「で」を前頁に送り「へろで」を1語にまとめ47頁に収めて検索を容易にした。

なお「へろで」に施した下線は、和訳書の傍線を再現したものである。和訳書では「いゑす」「まりや」「ペテロ」などの人名に単線、「ゑるされむ」「ゆだや」「なざれ」などの地名に複線を施している。当時ひろく行われた記し方である。電子版でもこれら二種類の傍線（下線）を再現した。ただし和訳書52頁の冒頭、および74頁36章はじめにある単線の「ゆだや」は複線の「ゆだや」の誤りと判断し電子版では後者のように改めた。

3-2 分かち書きの指針

和訳書の分かち書き箇所を、電子版で1字分あげた。しかし、分けるか否かの判断に迷う場合が大きく2つあった。1つは2行にわたる箇所、もう1つは分かち書きのスペースが狭い場合である。

1つめの改行にまつわる問題箇所の例を挙げよう。20頁の中程にサマリヤの街を説明する挿入句「このまちはこやまのうへにたてられたるきれいなるまちにてそのあたりはごこくのよくみのあるところなり」という一文がみえる（ここでは分かち書き箇所を半角あけて示す）。この文は和訳書20頁の7行目から8行目の2行にまたがり、7行目は「…のうへにたてられ」まで、8行目が「たるきれいなるまち…」と続く。したがって、行をまたぐ部分が、ひとつづきの「られたる」を意図したのか、あるいは「られ」と「たる」を分割するつもりだったのか、判然としない。

処理策として例えば「…たてられ／たるきれいなる…」のように、行の切れ目を斜線などで示す方法が考えられる。しかし検索の利便性を考え、電子版には行の切れ目を示さなかった。そこで上記のような場合、なるべく近くの文脈から似た例を探し、類推の基準とした。本例の前後において「（助）動詞＋タル＋名詞」という連体修飾句は、18頁「じぶん

のぬぎたるうはぎ」と、23頁「ばしやにのりたるきにん」の2例が20頁の前後に見える。2例とも、ひと続きの「×ぬぎたる」「×のりたる」でなく「たる」の前後を空け独立させている。そこで20頁も「たる」を独立させ「…たてられたるきれいなるまち…」とした。

『使徒行傳の話』は分かち書きに多様性がみられる。例えば33頁では「かみさまとまたそれにつくられたるひとびと」（「ひとびと」の「びと」は繰り返し符号）のように「つくられたる」が結合し、他方82頁では「ばうろよりおくられたるてがみ」のように「おくられ」は結合するが「たる」は独立している。「たる」に限らず『使徒行傳の話』には、こうした分かち書きの揺れがしばしば見られる。

もう1つ、書き写す際に語句を分けるか否か迷ったのは、分かち書きのスペースが狭くて、区切る意図があったのか、あるいは単に字間が空いてしまったのか、よく分からない場合である。今日の印刷物と異なり『使徒行傳の話』では字間の空け方に微妙なバラツキがあり、はっきりと1字分ひろく空けている箇所と、逆に、字間が空いてはいるが、分かち書きにしては狭い（偶然に空いてしまった）ような箇所とがある。

例えば23頁の第11章直前に「このひとはかのあなにややさつぴらのやうなぎぜんしやにて」云々という一節がある。問題なのは「のやうな」の箇所で、2分割した「の／やうな」にも、3分割した「の／やう／な」にも見える。「やう」と「な」の間が微妙に開らいているが、その幅は「(よう)な」と次の「ぎぜんしや」との空間よりも狭い。活版印刷でありながら、前代の木版刷りと連続性を思わせる、自由度のある植字ぶりである。ひとまとまりの「やうな」は23頁の「めよりうろこのやうなものがおちて」等に観察できる（破線は稿者による追加、以下おなじ）。また「やう」と「な」を区切った例は120頁の「そのあいだにひとのやうなものをみました」等にある。つまり「よう+な」の分け方も揺れているわけで、先の「たる」の場合と同様、その前後の文脈を判断の拠り所として、分けるか分けないかを決めた。

なお、分かち書きに関して明らかな誤りを電子版で1箇所だけ訂正した。5頁の第2章おわりあたりに「こゝろのうちにもみとほされる」とあるが、これは「こゝろのうちにもみとほされる」の誤りと考えられるので「も」と「みとほされる」の間を1字あけた。

3-3 変体仮名と異体字の変更、ならびに文字配置と記号類の処理

『使徒行傳の話』は当時ひろく使われた変体仮名を用いるが、電子化に際し現行の字体に改めた。例えば巻頭（1頁の1行目）にある書名「しとぎやうでんのはなし」のうち最初の「し」は「志」（最後の「(はな)し」は現代と同じ「し」）、「の」は「能」を崩した字形で、「な」は「奈」の形が濃厚に残る字であるが、電子版では普通の仮名に改めた。「ハ」と「バ」も、「は」と「ば」に改めた。「ゐ」と「ゑ」はそのまま再現した。

また踊り字は複数の種類を用いるが、電子版では「ゝ」と「ゞ」に統一した。繰り返し符号は「\／」と「\`」で代用した。例えば「いろ\／」はイロイロ、「だん\`」はダンダンの音声と対応する。

繰り返し述べてきたように『使徒行傳の話』は本文に漢字を使用しない。ただし各章冒頭の見出し「第〇章」と聖書の対応（参照）箇所には漢字を用いる。例えば「〔第一章〕 ゆだ の かわり を ゑらぶ こと 使徒行傳一章十二節より」のように漢字が見られる。このうち「節」の字は古い異体字であるが、電子版ではここに示す現行の字体で代用した。また和訳書の最後2章（第61～62章）は「黙示録」に基づく話であるが「録」の旧字も現用のものに代えた。

各章の見出し、例えば「〔第一章〕」は本文よりも大きな活字を用いるが、電子版では標準の文字サイズに統一した。そこに見られる亀甲括弧〔 〕は原文の記号のまま標準サイズで再現した。聖書の参照箇所は、例えば第一章の場合、題名「ゆだ の かわり を ゑらぶ こと」の下に、「使徒行傳一章」と「十二節より」を2行に分け行間をつめて割り註のような組み方をしているが、電子版ではこの文字配置を再現せず1行に並べた。

本文中のカギ括弧「 」や句読点は、もとのまま再現した。会話文の開始箇所にカギ括弧があるにもかかわらず、その終結箇所に閉じる括弧がない不備も観察されるが、補うことなく原文のままにした。また句点を、文末ばかりでなく、文中に打つ用法も原文のまま書き写した。本書では序盤部分にこの用法が目立つ。

3-4 和訳書の余白表示と挿絵の省略

和訳書は、各頁の本文わき（小口側の）余白部分に、例えば「使徒行傳 一章 ユダ の かわり を ゑらぶ こと」のように、書名、章、各章の題名を表示する。電子版ではこれを省いた。なお、余白表示では上例「ユダ」のようにカタカナを使用している。人名「イエス」「ペテロ」「ヨハ子」等と、地名「エルサレム」「ロマ」「マルタじま」等、そして「バプテスマ」も含めて、今日カタカナで書く語をすべてカタカナで表記する。これらは本文では平仮名に傍線を施す形式をとっており、本文と余白部の外来語の表記基準が異なる。本文内の題名のうち、ただ1箇所29章だけは「ポウロ みこ の れい を おい いたす こと」のようにカタカナで表記し、かつ傍線も施している。

和訳書には銅版画が2点含まれる。それは第14章「ぼうろ だますこ を のがれる こと」の30頁と31頁の間にある「だますこ いしがけ の まど」と題する絵と、第61章「よはね ばともす じま にて まぼろし を みし こと」の120頁と121頁の間にある「よはね ばともす の しま に しよもつ を かく」という絵である。どちらも頁全体に挿絵を配し、題名（解説の語句）がその下に記される。頁番号は振られておらず、絵の裏面は白紙のまま何も印刷されていない。ちなみに先に第2節で触れた英語版には、まったく作風の異なる別の挿絵18点が、別の箇所に配されている。

【資料】英語原書と和訳書の章構成の対比

英語原書の目次に、和訳書の各章冒頭にある題名を対応させ一覧化した。冒頭の数字が両書の章番号である。和訳書の章番号は括弧つき数字で示した。両書とも、斜線の前半が題名、後半が聖書の対応・参照箇所である。第50章までは英語原書と和訳書が一対一に対応するが、第51章以降は和訳書に一部再編が見られる。

1. The Twelfth Apostle./ Acts i. 12 to end.

(1) ゆだのかわりをえらぶこと／使徒行傳一章十二節より

2. The Promised Gift./ Acts ii. 1-15, 22-24, 32-38.

(2) はじめてせいれいのかくだること／使徒行傳二章はじめより

3. The Cripple./ Acts ii. 41 to end; iii. 1-19.

(3) いざりのいやされたこと／使徒行傳二章四十一節より

4. The First Imprisonment./ Acts iv. 1-31.

(4) でしたちはじめてとらへられしこと／使徒行傳四章はじめより

5. The Two Liars./ Acts iv. 32 to end; v. 1-11.

(5) いつはりをいひしひとのこと／使徒行傳四章三十二節より

6. The Second Imprisonment./ Acts v. 12 to end.

(6) でしたちふたたびとらへられしこと／使徒行傳五章十二節より

7. The Seven Deacons./ Acts vi. 1-7.

(7) しちにんのしつじをえらぶこと／使徒行傳六章はじめより

8. The First Martyr./ Acts vi. 7 to end.

(8) はじめていゑすのためにしにしすてばののこと／使徒行傳六章七節より

9. The First Missionary after the Ascension./ Acts viii. 1-13

(9) ぴりつほみちをつたへること／使徒行傳八章はじめより

10. Simon the Sorcerer./ Acts viii 14-24.

(10) まほうつかひしものこと／使徒行傳八章十四節より

11. The Humble Lord./ Acts viii. 26 to end.

(11) きにんみちにてばふてすまをうくること／使徒行傳八章二十六節より

12. The Heavenly Voice./ Acts ix. 1-9.

(12) ほうろ だますこ へゆくみちにてめづらしきひかりにあふこと／↓

13. The Comforting Dream./ Acts ix. 10-22.

↑使徒行傳九章はじめより

(13) ほうろ あなにや にあふこと／使徒行傳九章十節より

14. The Escape in a Basket./ Gal. i. 17, 18; Acts ix. 23-25

(14) ほうろ だますこ をのがれること／使徒行傳九章二十三節より 加拉太書↓

15. Saul's Visit to Peter./ Acts ix, 26, 27; Gal. i. 18, 19.

↑一章十七八節

(15) ほうろ ペテロ にあふこと／使徒行傳九章二十六七節 加拉太書一章十八九節

16. The Warning Dream./ Acts ix. 28-30; xxii. 17-21.
 (16) ぼうろ まぼろし の つげ を かうむる こと/使徒行傳九章廿八節より ↓
17. The Charitable Woman./ Acts ix. 31 to end. ↑同廿二章十七節より
- (17) めぐみぶかき をんな たびた の こと/使徒行傳九章三十一節より
18. The Vision on the House-top./ Acts x. 8-23.
- (18) ペテロ やね の うへ にて まぼろし を みる こと/使徒行傳十章八節より
19. Peter's Visit to Cornelius./ Acts x. 23 to end.
- (19) ペテロ、こるねりを の ところ へ ゆく こと/使徒行傳十章二十三節より
20. Peter's Deliverance./ Acts xii. 1-17.
- (20) ペテロ ろう より たすけ だされる こと/使徒行傳十二章のはじめより
21. The Death of the Third Herod./ Acts xii. 18-23.
- (21) だいさん の へろで わう むし の ため に し する こと/使徒行傳十二章↓
22. The Christians of Antioch./ Acts xi. 19 to end. ↑十八節より
- (22) あんておけ の しんじや の こと/使徒行傳十一章十九節より
23. Paul's First Missionary Journey./ Acts xiii. 1-12.
- (23) ぼうろ はじめて でんどう の ため に たびだち する こと/使徒行傳十三章↓
24. The Unfaithful Companion./ Acts xiii. 13-16, 38-50. ↑はじめより
- (24) まか、ぼうろ、ばるなば より わかれて かへる こと/使徒行傳十三章十三節より
25. The Stoning./ Acts xiii. 51, 52; Acts xiv. 1-20.
- (25) ぼうろ いし にて うたれし こと/使徒行傳十三章五十一節より
26. Paul's Short Journey to Jerusalem./ Acts xiv. 20 to end; It. 1-6, 31.
- (26) ぼうろ ゑるされむ に かへる こと/使徒行傳十四章二十節より
27. Paul's Second Missionary Journey./ Acts xv. 36 to end; xvi. 1-3.
- (27) ぼうろ ふたゝび でんどう の ため に たびだち する こと/使徒行傳十五章↓
28. The Woman Full of Prayers./ Acts xvi. 8-15. ↑三十六節より
- (28) みち を うけし をんな るでや の こと/使徒行傳十六章八節より
29. The Stripes./ Acts xvi. 16-24
- (29) ポウロ みこ の れい を おい いだす こと/使徒行傳十六章十六節より
30. The Earthquake./ Acts xvi. 25-34.
- (30) ろうや の じしん の こと/使徒行傳十六章二十五節より
31. Paul Set Free./ Acts xvi. 35 to end.
- (31) ぼうろ ゆる されて ろう より でる こと/使徒行傳十六章三十五節より
32. Paul at Thessalonica./ Acts xvii. 1-10.
- (32) ぼうろ てさろにけ にて みち を つたへる こと/使徒行傳十七章はじめより
33. Paul at Berea./ Acts xvii. 10-15.

- (33) ぱうろ べれあ にて みち を つたへる こと／使徒行傳十七章十節より
34. Paul at Athens.／Acts xvii. 16 to end.
- (34) ぱうろ あてんす にて みち を つたへる こと／使徒行傳十七章十六節より
35. Paul at Corinth.／Acts xviii. 1-5.
- (35) ぱうろ こりんと にて みち を つたへる こと／使徒行傳十八章はじめより
36. End of Paul's Second Missionary Journey.／Acts xviii. 7-22.
- (36) ぱうろ だいに の でんだう の たび を をはりし こと／使徒行傳十八章七節より
37. The Eloquent Preacher.／Acts xviii. 24 to end.
- (37) あぼろ の こと／使徒行傳十八章二十四節より
38. Paul's Third Missionary Journey.／Acts xviii. 23; xix. 8-12.
- (38) ぱうろ みたび でんだう の ため たびたち する こと／使徒行傳八章二十三節より
39. The Disciples of John the Baptist at Ephesus.／Acts xviii. 1-12.
- (39) ぱうろ ゑぺそ にて しんじや に ばぶてすま を ほどこし みち を
をしふる こと／使徒行傳十九章一節より
40. Paul's Meeting with Apollos.／1 Cor. xvi. 1, and various passages in the two Epistles to ↓
- (40) ぱうろ あぼろ に あふ こと／哥林多前後書 ↑ the Corinthians.
41. The Sorcerers.／Acts xix. 15-20.
- (41) ぱうろ の まね を したる まほう つかい の こと／使徒行傳十九章十三節より
42. The Uproar at Ephesus.／Acts xix, 23 to end.
- (42) ゑぺそ の まちに そうだう の おこりし こと／使徒行傳十九章二十三節より
43. The Coming of Titus.／Acts xx. 1-6.
- (43) びりび にて ぱうろ てとす に あふ こと／使徒行傳二十章一節
44. The Sleepy Hearer.／Acts xx. 1-6.
- (44) わかき もの にかい より おちし こと／使徒行傳二十章七節より
45. Paul's Farewell to the Ephesians.／Acts xx. 13 to end.
- (45) ぱうろ ゑぺそ じん に わかるゝ こと／使徒行傳二十章十三節より
46. Paul's Visit to Philip.／Acts xxi. 1-13.
- (46) ぱうろ びりつぽ の いへ を たづねる こと／使徒行傳廿一章三節より
47. Joy in Jerusalem.／Acts xxi. 15-18.
- (47) ぱうろ ゑるそるま^[ママ] の きやうだいに でんだう の もやう を はなす こと／↓
48. The Uproar in the Temple.／Acts xxi. 18-33. ↑使徒行傳廿一章十五節より
- (48) ゑるされむ に そうだう の おこりし こと／使徒行傳二十一章二十七節より
49. The Uproar on the Castle Stairs.／Acts xxi. 33 to end; xrii. 1-23.
- (49) ぱうろ たむろじよ に とどめ られること／使徒行傳廿一章三十三節より
50. Paul's Escape from Scourging.／Acts xxii. 24.

- (50) ぱうろ わる もの の て を のが る こと / 使徒行傳廿二章廿四節より
51. A Joyful Night in the Castle. / Acts xxii. 30; xxiii. 1-11.
52. The Plot Discovered. / Acts xxiii. 12-22.
- (51) わかき もの へ いた い の か し ら に み つ じ を つ ぐ る こと / 使徒行傳廿三章 ↓
53. The Journey to Caesarea. / Acts xxiii. 23 to end. ↑ 十六節より
- (52) ぱうろ かいざりや へ おく ら れ る こと / 使徒行傳廿三章廿三節より
54. The Prison at Caesarea. / Acts xxiv. 1-23.
- (53) ぱうろ ゆだや び と と た い け つ の こと / 使徒行傳二十四章一節より
55. The Trembling Judge. / Acts xxiv. 24 to end.
- (54) ぺりくす ふ う ふ な ぐ さ み に み ち を き く こと / 使徒行傳二十四章二十四節より
56. The Disappointment of the Jews. / Acts xxv. 1-12.
- (55) ぱうろ ぺすとす の ぎ ん み を う く る こと / 使徒行傳廿五章一節より
57. King Agrippa's Visit. / Acts xxv. 13 to end; xxvi.
- (56) あぐりつば の ま へ に て ぱうろ み ち を と く こと / 使徒行傳二十六章一節より
58. The Beginning of the Voyage. / Acts xxvii. 1-12.
- (57) ぱうろ ろま に ゆ く こと / 使徒行傳二十七章一節より
59. The Storm at Sea. / Acts xxvii. 13-26.
60. The Last Night of the Voyage. / Acts xxvii. 27-38.
- (58) ぱうろ ろま へ ゆ く ふ な た び の こと / 使徒行傳二十七章二十七節より
61. The Shipwreck. / Acts xxvii. 39 to end.
62. The Viper. / Acts xxviii. 1-6.
- (59) まるた じ ま に て ひ よ り ま む し の い で し こと / 使徒行傳廿八章一節より
63. Landing in Italy. / Acts xxviii. 7-15.
64. Arrival at Rorne. / Acts xxviii. 16 to end.
- (60) ぱうろ ろま に つ き し の ち の こと / 使徒行傳廿八章十六節より
65. The Glorious Visions of John. / The whole Book of the Revelation.
- (61) よはね ぱともす じ ま に て ま ぼ ろ し を み し こと / 黙示録一章九節より
- (62) よはね て ん こ く の ま ぼ ろ し を み る こと / 黙示録四章初より